

## 第2回東輝・詳徳中学校ブロック協議会 議事録要旨

### ■日時

平成28年12月1日（木）午後7:00～午後9:20

### ■会場

亀岡市役所 1階 市民ホール

### ■議事

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 当初計画案と住民説明会等の状況について
- 4 計画の見直し案と対応について
  - ① 交流事業ほか児童の不安を減らすために
  - ② 通学路・学用品等について
  - ③ 施設及び備品について
  - ④ その他
- 5 意見交換
- 6 閉会

### ■意見交換発言内容

委員	<p>私は、教育委員会が開催した小学校の説明会計4回と地域別の説明会計6回の全てに参加した。出された意見はほとんどが反対意見であった。修正案をみて、それが反映されておらず、憤りを感じている。反対の中にもいろいろあり、何が何でも反対である人や、児童の通学の安全が不十分であり反対である人、今通っている児童はそのままその学校で卒業させてほしいから反対である人、今後入学する予定であるけれども、その学校に入学することを踏まえて、幼稚園や保育園を選んで、この地域に住んでいるのだという人等切実な意見があった。非常に残念なのは、説明会をされる度に、亀岡市が行うことなので学校が変わることは仕方がないという消極的な賛成やどちらでもよいという保護者が、教育委員会の説明や質疑応答の中で、反対に回られている方が非常に多く見受けられたことである。</p> <p>現在、教育委員会は平成30年度からの校区見直しのスケジュールを提案されているが、このように多くの反対意見がある中では、地域や児童、保護者に招いた不安と混乱がさらに大きくなるのではないかと懸念している。この期間に亀岡市は説明会を多数されているが、我々保護者や地域住民の理解が十分に得られていない。単純に回数をこなせばよいというものではなく、なぜ平成30年度からなのか、なぜこの地域なのかということを保護者が理解できていないので、複数の説明会に参加されている保護者もおられたが、結局、疑問や不安が解消できずもやもやが残って、さらに反対意見が増えていくというのが現状ではないかと懸念している。</p>
----	---

委員会からすれば回数を重ねているから十分に説明しているのではないかと言われると思うので、こういう意見があれば心外かもしれない。説明責任というのは回数ではなく要望を聞いてどういう調整して取り入れていくか、取り入れないのであればその理由をちゃんと説明すればいい。今の案はこれで、今日は意見を聴きにきただけだからということでは、市民が意見を言っても本当に聞いてくれているのかなという不安ばかりが残る。それがとても残念であった。

この間、教育委員会にはなぜ平成30年度からなのか、住民や保護者が腑に落ちる説明をしてくださいと言ってきたが、実際の説明会ではそこが説明されていなかった。安詳小学校では児童が増えているので、本当に今回の見直しは切実な問題である。9月の時点で今年の6年生は4クラスで124名、来年の新1年生は180名を超える人数が予定されている。単純に30人学級であれば6クラスになるので、2クラス増えることになる。現在、安詳小学校は1教室しか空いていない。何とか学校でやり繰りするにしても、その2教室分を解消するのがやっとなのであるということで、次の30年度になったら仮に30人学級であるならば、今の5年生が4クラスであるため、140名以上になれば5クラスになり教室がないという状態になる。だから平成30年度からだとは思っていたが、その辺の説明が一切なかったように思う。説明されていたかもしれないが、保護者の立場からすれば全く理解できなかった。なぜ唐突に平成30年度からなのか？となっている。説明会の中で、いろいろな案を検討したと言われたが、その案がどういう案だったのか一切提示されていなかったため、こちらからすれば単純に人数の数合わせにされているのではないかという心配がある。例えばA案やB案があって、それぞれに一長一短があり、最終的にこの案になったという説明があれば、もう少し受け入れる余地があった。単純に一つの案を提案されて、これでどうですかという形では、何をどう検討して、何が良くて、何が悪くて、ベターとしてこういう案になるというのが全く見えない状況でした。それもまた不安が増長されたのかなと思っている。通学路の話もあったが学校に聞けばわかることで、地域割りについても町界で割られているので、学校や自治会に聞けばわかることである。その辺の準備不足が大きかったのではないか。それがわかった段階で、後の全ての説明会が終わるまで変えられないというはそのとおりのかもしれないが、それをわかっているながら説明することでさらに地域に混乱を招いてしまったのではないか。

あと、交通の安全ということで、安詳小学校では事故があつて以来すごく敏感になっている。説明会でも交通安全対策が不十分であるから反対であるという意見が非常に多かった。それに対してのソフト面やハード面でいろんな提案があった。その中でも安詳小学校では集団登下校をしている。これが詳徳小学校やつつじヶ丘小学校に移る地域で、集団登校の話は出たが、集団下校のことは説明がなく一切触れられていません。保護者にしたら安詳小学校では集団下校が当然なので、当然その対応をしてくれるという思いがあり質問もなかったし、説明もなかった。これは、説明してあげないと保護者は不安である。我々は安詳小学校で普通に集団下校をしてもらっているので、詳徳小学校やつつじ

ヶ丘小学校でもそうなるだろうと思っていますが、一切説明がなく、抜けていたと強く思う。

教育委員会からすれば、我々の意見を含めて、そんなことぐらいという思いがあるかもしれないが、保護者は本当に切実な思いで子どもに接しているし、交通安全への取組みをしている。そんなことではなく、そんなことが大切であると思ってほしかった。また通学で使う帽子やランリュック、体操服についてはどこの説明会でも質問があった。亀岡市の説明では、帽子はマークが入っているから仕方がない、ランリュックは校章を入れ替えたらい、体操服もそのまま使えますというものであった。確かに使えるが、親の立場からすれば、いじめや不登校になる要素をひとつでも減らしたい。そういう意味で言えば、例えば帽子であれば支給されているので、交換します等、大人の都合で無理やり転校するのであれば、それぐらいの配慮があってもよいのではないか。体操服についても、各学校バラバラであるが、それをそのまま使えますし、転校生もそうしていますという説明であった。そうかもしれないが、例えばこの4小学校で統一の規格にするとか、それに定めるが、これまでのものを使ってもよいという形であれば、保護者の考えでそれを買おうかとなる。そういった配慮もないのが非常に冷たい対応だと思う。来年度からは難しいかもしれないが、平成30年度から実施するのであれば帽子や体操服は整理ができると思うのでそれについては少なくともお願いしたい。せっかく多くの説明会をしていただいたのに、すればするほど反対が多くなり、教育委員会に対する溝が深まっているのは非常に残念である。私としては説明不足による時期尚早ではないかと思う。今慌ててやると保護者も地域も混乱が広がる。子どもたちの中でも「お前は学校が変わるんやろ」という話が出ている。「お前は学校が変わるから仲間に入れてやらない」ということがあるように聞いている。私は、家では通学区域の見直しについての話はしていない。まだ決定していないし、いつ変わるのかも含めて言えないために話していないのであるが、子ども同士で話をしており、子どもは学校を変わりたくないと言っている。子どもたちは敏感に察知して話をしている。その辺も踏まえてきっちり対応してほしい。安詳小学校は教育環境が悪いというような文章が資料に書かれているが、決して悪くはない。先生方が努力して限られた中で最大限に努力されており、大変失礼な言い方であるので、その表現を止めていただきたい。

一方で、安詳小学校がいっぱいになって、平成30年には溢れてしまうので、何点か提案したい。

**(提案1) 6年生だけに限っている校区外通学を1年生から6年生まで認めてあげれば各家庭にあった対応ができるのではないか。**

教育委員会が説明会の中で安詳小学校の保護者の中にも賛成の方がおられ、教育委員会に直接言ってこられたり、メール等が来たりしているという話をされてきた。確かに、安詳小学校は大規模校であるから、保護者の中には自分の子どもに目が届いているのか不安になられる方もいるし、亀岡市の言う適正校に行かせたい方や小規模校であれば西別院小学校や東別院小学校が募集されて

いるので、そちらに行かれる方もいるのは確かだと思う。どこの学校へも行けるのではなく、2小学校1中学校で小中一貫教育を目指すならその範囲の中で選べるようにすれば、早く学校を変わりたいという人にも対応できるのではないか。

**(提案2)** 1年生から6年生で希望される方は、詳徳小学校の放課後児童会に行っていただくことはできないか。今まで通り低学年は安詳小学校にいて、1年生から6年生までの兄弟がいる方はどちらでも選べるようにすれば、保護者にとってもメリットがあり、亀岡市のいう小中一貫教育の先駆けになるのではないか。

実際に教室が足りないため、放課後児童会が高学年まで実施できないのは確かである。これは、将来的に小中一貫教育を目指すなら、共働き世帯も多く、需要も高いと思うので保護者にとってもよいのではないか。ただし、その場合は安詳小学校から詳徳小学校まで移動しなければならないので、その移動手段をどうするかを考えなければならない。例えば、亀岡市のスクールバスを利用する等で対応できないだろうか。

**(提案3)** 常時使用していない会議室や図書室を一般教室にして、プレハブを建てて、会議室等にすればよいのではないか。

具体的に教室を増やす提案をしたい。増築をするには多額の費用がかかるし、亀岡市も余裕はないと思う。そのため、なるべく今のままで増やす方法はないかと考えた。例えば、同じ学校で授業を受ける環境が極端に違うことはあってはいけないので、会議室であれば2教室分取れるので、パーティションで区切って、教室を改装すればよい。もう少し児童が増えれば、図書室等の通常利用していない部屋を転用すればもう少し耐えられるのではないか。そういう工夫をする中で保護者が納得いくような計画を進めていただきたい。

**(提案4)** どうしても小中一貫教育にこだわるのであれば、今の小学校区はそのままで、中学校区を東輝中学校と詳徳中学校に分かれているが全て詳徳中学校へもっていくことが可能かどうかを検討されたらどうか。

そのうえで、教室が足らなくなるのであれば、詳徳小学校と詳徳中学校は道を隔てて並んで建っている。その立地を生かして、先ほどのように通常利用していない教室をまとめることができないか。例えば図書室や家庭科室等をまとめることであまりお金をかけずに教室を増やすことは可能ではないか。

長い目でみて適正化にすることは必要だと思うが、慌ててするのではなく、もう少し意見を聴きながら、地に足の着いた計画をしてもらいたい。児童が増えているのはあと5年くらいで、その後は減ってくるので、校区の見直しを進めるのではなくて、できることからやっていく。その中で、住民や保護者との信頼を築きながら地に足の着いた計画にしてほしい。もう少し時間をかけて議論してほしい。

座長  
(教育総務課長)

すべての説明会に足を運んでいただき、ありがとうございます。その時の生の声を届けていただいた。ひとつひとつの会場で細かく丁寧な回答をさせていた

事務局	<p>           できればよかったが、すべての質問に答えることができない状況もあり、すべての会場を広聴の場ということで、ご意見やご質問をいただいた上で、教育委員会の考え方を提示させていただきたいということで、その間、説明不足であるご指摘いただいたが、その通りだと反省している。また、ご質問やご意見に対して、どうしても地区や人数がある程度決まらなと教育委員会としての対応を返事させていただくことができないため、説明が後手になってきたことも反省している。これまでにいただいたご意見やご質問については、今後ホームページや説明会でひとつひとつ説明させていただく機会を設けていきたい。今、委員から4つほどの大きな提案をいただいた。         </p> <p>           (提案1) 経過措置を1年生から6年生までに拡大して選択制にしてはどうかという意見をいただいた。教育委員会としても区域を見直して皆様のご意見にお応えすることができないため、ご提案いただいたことも含めて学校と協議し検討しているところである。他の皆様からもご提案をいただきたい。         </p> <p>           (提案2) 放課後児童会の件については、素晴らしいご提案をいただいた。放課後児童会については、それぞれの学校で実施していくためにも、適正化を進めることで、各小学校間のバランスを取ってすすめたい。         </p> <p>           (提案3) 仮設の教室については、教育委員会でも校舎の新設や仮設の教室を建てることも検討の中に入れていた。これまでの二年間の検討会議の中で、議論をいただき出された提言に沿った形で、3月に基本方針を策定させていただいた。その協議の中で何度も議論が重ねられた結果、東輝・詳徳中学校ブロックについては、増改築で進めるのではなく、校区の見直しを基本に課題の解消を目指すという方向性が示されている。教育委員会としては、それに沿った形で検討し、この実施計画案をお示ししている。ただ、この計画案にしても今の0歳から12歳までの子どもの各区域、各年齢の人数に基づいて作成している。そのため、説明会でご意見もいただきましたが、まだまだ新しい開発が進んでいる地域もあるので、そこに住まれる子どもたちが社会増という形で現れた時には、計画通りに進めていくことはできないということも十分考えられるため、仮設校舎ということも検討していかなければいけない。         </p> <p>           (提案4) 小中一貫教育について、これまでの説明会でも一貫して述べてきましたが、今後の教育活動を充実させていくためには、どうしても小中連携を推進していかなければ、小学校の英語教育等にも対応していけないので、適正化を進めている。         </p> <p>           一点目の通学区域の見直しの対象地域が拡大されており、説明会の意見が反映されていない部分について、現状の学校の規模が決してよいとは思っていないので、全体の学校間のバランスを図る中で適正規模に整え、教育環境を子どもたちのために整えていくことが教育委員会の責務だと考えている。現状では、安詳小学校の児童数を少しでも他の学校へ移っていただいて、全体的なバランスを図る中で適正規模に努めていきたいと考えている。         </p>
-----	--

委員	<p>進め方の提案として、一問一答で座長が答えていたら時間がない。先に共通の土台で自治会の立場の意見や保護者の意見、学校長の意見を出していただいた上で全体の総意をまとめていったほうがよいのではないか。</p> <p>平成30年に本当に安詳小学校の教室が足らなくなるのか。前回の会議では平成29年度から実施すると言って終わっている。それが平成30年度からに変更されているが説明がされていない。その辺りの共通認識をしてから意見を交換すべきである。</p>
事務局	<p>前回の会議では、平成29年4月実施で説明させていただいた。しかし、その場では、準備期間も含めて実施するには難しいという意見を多数いただいた。そうした関係からブロック協議会の委員には申しませんが、そのまま平成29年4月実施で住民説明会に臨むことは難しいと事務局の判断により平成30年4月と1年先送りする形で住民説明会では説明させていただいた。</p>
委員	<p>平成30年の根拠は。</p>
教育長	<p>京都府では、京都式少人数教育という形で、1学級の人数を30人程度と少なくしている。しかし国基準の40人まで増やしてもよい。40人まで詰めれば学級数は減る。教育委員会としては、どの学校でも30人程度学級という一定のクラス編成ができる環境を整えていかなければいけないと考えている。安詳小学校は、30人程度で学級編成するとパンクする。40人までであればもう少し対応ができる。ですから児童数がなかなか確定できないが、パンクしないようにしようと思えばパンクしないようにできるが、教室がないから30人程度学級が実施できないことになってしまう可能性がある。</p>
委員	<p>30人程度学級を崩して40人学級にしないと平成30年にパンクするということなのか。35人学級のままだといくつ足りないのか。</p>
座長	<p>教育委員会で分かるのは、今の児童数や今後入学する児童の年齢ごとの人数である。35人に1人増えるだけでクラスが増える。何クラスになるか実際にその時になってみないとわからない。その中で社会増を全く見込んでいない中で、平成30年度にはおそらく教室が足らなくなるという見込みを立てている。</p>
委員	<p>足りなくなるのは30年ではなく、来年ではないか。今の安詳小学校には空き教室が1教室しかない。6年生は4クラスで、来年入ってくるのは180人であれば、5クラスか6クラスではないか。ということは、教室は来年足りなくなる。それを学校が工夫する中で、何とか来年はやっていただけると聞いている。</p>
委員	<p>エビデンスをしっかりとしろということですが、エビデンスとして出てくる数字</p>

	<p>に二つの基準がある。それは先程教育長がおっしゃられた基準である。基本的に1年生と2年生は35人以内でクラスを編成し、3年生以上については40人以内とし、これを基準学級数と呼んでいる。今の安詳小学校は各学年5クラスの校舎となっている。放課後児童会のなかよし学級で使っているところもあるが、なかよし学級の運用をうまくすれば、30教室は確保されている。それを基準学級数でいうと1年生・2年生は各5学級で、3年生から6年生は各4学級になり、26学級となる。そうすると十分教室に空きがある。これが一つの基準である。また、京都府が少人数教育を実施するというので、30人程度学級という制度を作っている。学校にとってはとてもありがたい制度である。校長はその学年の様子をみて、4クラスのところを5クラスにして、30人程度のクラスで運用するか、4クラスはそのままに、どのクラスにも入る先生を1人配置するティームティーチングという少人数指導という形で運用することもできる。少人数学級の5クラスにするか少人数指導の4クラスにするかを校長が選択する権限がある。そのときに、校長が全部少人数学級にしますという教室は足らなくなるということが起こる。これを先程教育長がおっしゃられたもう一つの基準である。基準学級数でいくとしばらくは空きがあるが、30人程度学級ではもう空きがない。その状況の中で校長が判断して、来年については、ひとつは特別支援学級用の教室を運用する。今は3教室あるが、2教室使用し、1教室をプレイルームとしているのでそこを使わせていただく。なかなかこれも苦しい決断である。それから、大変申し訳ないけれどもなかよし学級には来年出て行っていただいて、その代わりに小体育室等を利用していただくように運用し、そこで1教室確保していく。そのように考えており、来年度については、余裕があると思っているが、再来年度以降については、社会増が全く読めない状況である。できれば入学のときの学級数でそのまま学年を上げてやりたいのが本音である。学校としてもなるべくスムーズに運営していきたいと思うので、今の状況で来年、再来年についてもある程度は読めている状況であり、全く学校運営ができないわけではないが、校長が自由にしたいのに自由にできないのも事実である。また、安詳小学校から東輝中学校と詳徳中学校に半々に進学しているのも事実である。だから、そこを解消してやりたい気持ちは理解できる。それについて、どうしていくかは別の視点で考えていく必要がある。</p>
委員	<p>馬堀駅前の見晴1丁目であるが、説明会での住民の意見を聴いて修正されていると思うが、地元は了解しているのか。また、緑色の安詳小学校から詳徳小学校へ移る地域がこれまで対象でなかった地域が含まれているが地元はこれでいいのか。あと、中学校区で夕日ヶ丘地域が東輝中学校から詳徳中学校へ移ることになることについて、地元は了解しているのか。また、篠町森等の地域で安詳小学校からつつじヶ丘小学校へ移る地域は地元は了解しているのか。</p>
事務局	<p>一つ目の馬堀駅前の地域については、現状で示している地域でも地元から区を</p>

	<p>挙げての反対という形で、教育委員会にも文書でいただいている。説明会の場においても原案については賛同できないという意見を多くいただいた。しかし、地元の了解は得られていませんが、この地域を一体的なコミュニティが形成されていることからエリアを拡大しています。今後地元に入ってご理解いただけるように説明させていただきたい。二つ目の夕日ヶ丘地域については、詳徳中学校への校区変更については、一定ご理解いただいているものと考えています。それから、緑色の安詳小学校から詳徳小学校へ移る地域で、これまで対象でなかった地域で今回拡大している地域にお住まいの皆様には具体的にこの案を示してお願いしている状況でもご理解いただいている状況でもありません。ここで御意見をいただく中で、この原案を進めてもいいか御意見をいただきたい。</p>
委員	<p>全部の説明会に出席していたが、今の意見と差があるように思う。確かに馬堀駅前前の第六見晴区ですが、ものすごい反対があった。文書でも申し入れされていますし、他の地域に住所を移してでも安詳小学校に残りたいと強い想いで言っておられた。それはメディアス区でも一緒である。それを認識されていると思うが、今回エリアを広げられたことについて強い憤りを感じる。同じことが洗川でも言える。洗川区はつつじヶ丘小学校へ移る地域と安詳小学校のままの地域と自治会が分断する形になっていた。それで安詳小学校に残る部分があるのだから、一体として安詳小学校に残りたいという意見が出ていた。それが、つつじヶ丘小学校に移る地域と安詳小学校のままの地域が詳徳小学校になっていた。その辺をしっかりと説明してほしい。説明会の議事録が公開されていないので、自分の参加した説明会以外の説明会でどんな意見が出たか全くわからない。議事録をホームページに掲載するなり、自治会回覧するなりしてもらわないと間違ってしまうのではないか。中学校区では、東輝中学校から詳徳中学校へ変わる地域は、概ね賛成で理解したのではなく、意見としては国道9号線を渡ることになるので、交通上の心配があるというものもあった。納得したのではなく、そういう意見も言って欲しい。ひとつ良かった点は、篠町野条のコーナンの地域が今回外れている。実際は店舗があって児童が住まれている家が2件くらいしかなく、馬堀駅前から9号線へ繋がる道の交通量が多く、ここを渡ることを非常に心配されていた。そこが安詳小学校へ残ることになった点については、良かった。</p>
座長	<p>今ご意見にあったように、各説明会の会場では非常に強い口調で反対の意見が述べられた。そのような中で、当初の案では適正化の効果が十分に得られない。安詳小学校から詳徳小学校へ移る人数があまりにも少なすぎるという意見がでたのも事実である。そういった意見もバランスを取って取り入れていくのであれば、実施方法等で皆様と協議させていただいて、皆様にご理解いただけるものを作り上げていかないと、エリア狭めたり無くしたりすることで解決できるものではないことをご理解いただきたい。</p>



委員	<p>教育委員会は、学校規模を早急に適正化することがより良い教育環境を作ることだと言うが、規模を適正化することがよい教育環境であると第一義的なものだと思っているのか。私は、校長先生や保護者からすればそれは違うと思う。私は、安全安心や信頼関係だと思う。学校にとって怖いのは保護者が学校や教育委員会に対して不信感を持って生活することで、それが子どもに影響を与える。もっと現地現場主義でやるべきで、反対意見ばかりやるのはだめだと思う。本当に、学校規模を早急に適正化することがより良い教育環境になると言い切れるのか。</p>
事務局	<p>今の状況が決してよい状態ではないと考えているので、学校間の規模バランスを図って、教育環境を整えていきたいというのが基本的な考え方である。</p>
委員	<p>先程説明があったように、学校のクラスを何クラスにするかによって、安詳小学校のように増えてくる学校もあるし、少子化によって減ってくる学校もある。南つつじヶ丘小学校も1200人くらいが400人くらいになっている。平成32年から小学校の指導要領が変わるため、平成30年くらいからその準備に入ってくる。南丹市や京丹波町でもどこの地域でも学校規模の適正化は実施されている。超過密の環境にならないようにして、良い環境に整えていく。いい学校と学校規模の適正化は別問題であって、学校はそれぞれ先生方が特色を出すことでできていく。反対のない完璧な区割りはない。今日用意していただきたかったのが、現在の生徒人数と将来の推計、学校規模の適正化後の数値を出して、そのためにはこういう校区の見直しが必要で、環境を整えるために、協力いただけますかという資料があればわかりやすかった。</p>
座長	<p>現行通りの区割りでいくと、平成27年度の詳徳中学校325人で6年後には335人とほぼ横ばい、東輝中学校は699人が6年後722人で微増である。詳徳小学校は、267人が230人へ減少し、安詳小学校は逆に865人が6年後に880人、南つつじヶ丘小学校は371人が275人、つつじヶ丘小学校721人が610人という見込みを立てている。これは団地開発や転入等による社会増を見込んでいない。安詳小学校は、平成29年度は900人近く、平成30年度は900人を超えるだろうと予想される。そこから若干減ってくるかもしれないが、夕日ヶ丘や他の開発でそこに住まわれる方は子どもの小学校や中学校への入学を機に引っ越してこられることが多いと予想はできても、正確に人数を把握することはできないのでご理解いただきたい。</p> <p>修正案を実施させていただいた場合、学年進行か全学年移るか等の実施方法を度外視して、詳徳中学校が555人、東輝中学校が575人となる。東輝中学校には亀岡中学校から移る生徒も含めているので、含めないと400人台になり、詳徳中学校のほうが東輝中学校より多くなる。小学校については、詳徳小学校は平成33年には335人でほぼ適正規模に近づき、安詳小学校は670人まで減らせる。南つつじヶ丘小学校は380人で現状とほぼ同じくらい、つ</p>

委員	<p>つつじヶ丘小学校は610人で今よりは100名くらい減る。</p> <p>ひとつ残念なのが、現場にいる学校長の発言する場がほとんどない。それから数多くの説明会をされているが、ここに学校現場の声を聴く場が一回もない。学校の教師や校長がどう思っているのか。前回の会議で、過去に東輝中学校の荒れた時代のことについて、膝をつき合わせて話し合ったらどうですかという意見があったがなかった。もうひとつ、計画の紫色の亀岡中学校から東輝中学校へ移る地域について、もしかしたら東輝中学校へ来なくなる可能性があるということは、1400人抱えていた学校の規模を350人くらいである詳徳中学校を超える可能性がある。中学校現場からすれば小中連携の中での学校が割れないというものが、このままではつつじヶ丘小学校は東輝中学校と亀岡中学校に分かれることになり、重要な部分が改善されないままスタートすることになる。住民が東輝中学校へ行くことを反対されているところを無理に東輝中学校としてしまうと、行きたくない学校に行かされたということしかない。亀岡中学校は、現在自転車通学が認められているが、東輝中学校は認めていない。ここの地域の結論が出ないと準備ができない。来年の入学説明会の時点では決まっていないといけない。やるのであれば全ての地域を一緒に実施してほしい。平成30年度が無理なら平成31年度、平成32年度でもよい。決して反対ではない。</p>
委員	<p>紫色の亀岡中学校から東輝中学校へ移る地域を保留にしている理由は何か。</p>
教育長	<p>意見がまとまっていない。ある地域は亀岡中学校から東輝中学校に変わってもよいと言い、ある地域は過去の経過もあり地域の繋がりの問題があり、亀岡中学校に残したいという意見や、小学校をつつじヶ丘小学校から亀岡小学校にという意見もあって、一斉にということが難しい。中に線をひいて亀岡小学校・亀岡中学校、つつじヶ丘小学校・東輝中学校に分けることも考えたが、地域の一体感が崩れるのでやめてほしいという意見もある。様々な意見があり、改めて議論を深めていかないと答えがでない現状である。通学区域を一部修正して解決できるような段階に至っていないと判断している。</p>
委員	<p>今の話では、意見がまとまっていないから保留であるということであるが、安詳小学校区の地域では、地域でまとまって反対だといっているのに、エリアを広げられている。おかしくないか。どう説明するのか。少なくとも保留にしてほしい。</p>
座長	<p>中学校の学年進行で行うものと小学校の見直しを分けて考える必要がある。同じように取り扱って判断できない部分もあると考えている。</p> <p>小学校の場合、学年進行にすると6年間かかる。学校現場として6年間混乱することになり、それでよいのか教育委員会としても判断しかねる状況にある。</p>

委員	<p>そうであれば、安詳小学校の地域も保留にしてほしい。</p>
委員	<p>そういう状況でスタートすると、現場は間違いなく混乱する。そのあとの部分については学校にまかせるとなると、校長というよりは、そこにいる子どもたちが犠牲になる。子どもが不登校になるからスクールカウンセラーを入れるとか事が起きてからでは遅い。全ての人が納得できることは有り得ないが、紫色の亀岡中学校から東輝中学校へ移る地域を残すことで、他の地域でも保留にしてほしいということが出てくる。だからもう少し時間が必要である。</p>
委員	<p>東部自治会で説明会をしていただいた。歴史的な経緯といろいろな感情、新しく入ってきた住民の亀岡中学校に対する想いを随分言われた。そういう状況もあって、この地域の適正化に対する課題が明確に示されていないままで、亀岡地区の中での結び付きをどう考えるのか。自治会は地縁団体であり、住民の繋がりで纏まりをもっているということをどのように考えるのか。それが、東輝中学校に行けば崩れるのかと言われても私はわからない。感情論であり、歴史的に積みあがって、今の形があるので、理屈では言えない。早急に変えることは難しい。教育に関することは長期的に考えないといけない。中長期的な時間が欲しい。</p>
委員	<p>経緯を説明すると、紫色の亀岡中学校から東輝中学校へ移る地域は、昭和50年につつじヶ丘小学校が亀岡小学校から分かれてできたときに、校区として編入された。その時に、地元調整されていたが、入学式・開校式の前日までそのときの児童はつつじヶ丘小学校にいくか亀岡小学校にいくかわからなかった。この間の説明会のときに、私はお別れ会もないままにつつじヶ丘小学校に行かされたとおっしゃられていたので、この会議のようなものはなかったようである。自治会と教育委員会で進められたと思うが、結局つつじヶ丘小学校の適正化のために行かされたという意識が今もある。10年前にもこのエリアをつつじヶ丘小学校から亀岡小学校へ戻そうという動きがあった。この時には、過去に無理矢理つつじヶ丘小学校へ行かされた児童が、つつじヶ丘小学校のPTAの会員になっており、自分たちはつつじヶ丘小学校で慣れているのに、なぜ子どもを今さら亀岡小学校に戻さないといけないのかという議論があり、現状になっている。他の地域も大変であるが、この地域は昭和50年や10年前の経緯があるので、うまく運ばないと地域がバラバラになる。古世町は国道を挟んで亀岡小学校とつつじヶ丘小学校に分かれていても、亀岡中学校で一緒になるからいいが、東輝中学校になると中学校まで分かれてしまうことになる。地元で慎重に協議していただいております、いずれ答えを出していただければと思う。</p>
座長	<p>説明会で小学校を見直すときに、在校生には負担が大きいから新1年生から学年進行で実施したほうが良いという意見が多くあった。どこの地域でもあった。</p>

	<p>教育委員会としては、通学の安全性をかんがえると新1年生だけで通学するのは大変難しいとお答えさせていただいたが、これも実施手法のひとつとしてあると思っている。小学校の校長先生は、小学校1年生からの学年進行で区域の見直しができるかどうかを現場の意見としていただけたらと思うがどうか。</p>
委員	<p>今初めてこういうことを聞いて、多様な意見がある中で学校の代表者が軽々しく言えない。</p>
委員	<p>今の提案で、仮に学年進行で新1年生から移るときに、保護者の立場として小学校1年生だけで通学するのは不可能だと思う。ただ、そこにスクールバスで巡回すれば可能であると思う。また、例えば安詳小学校から詳徳小学校へ移る場合は、隣接するももとの詳徳小学校区の登校班のところまで誘導してもらえれば可能かもしれない。そういう前提がないままにどうですかと聞くのは乱暴であるし、答えようがないかと思う。</p>
座長	<p>教育委員会としては検討している状況であり、判断できない状況であったので、御意見をいただきましたということである。教育委員会としても1年生だけで通学することは無理だろうと説明させていただいてきた。検討の中では先程あったように既存の校区の通学班までなんとか誘導して、そこから一緒に通学する方法では可能性があるかなと思う。校区の見直しができない地域においても児童の減少により、ひとつのエリアで通学班が組めず、隣の通学班と一緒に班を組んでいるという現状も聞いているため、そういう方法も模索して進めていくのではないかと考えている。</p>
委員	<p>新1年生だけで通学するのは無理である。1年生から6年生まで全員で移って通学するようにしなければ子どもがかわいそうである。</p>
委員	<p>事務局が通学区域の地域を修正して提案するのであれば、そういう前提条件を示して提案しないと、委員の方から聞かないと言わないのであればこの裏に何かあるのか分からない。また、平成29年度実施は困難だと事務局で判断しましたというのは、事務局が判断したらよいのであれば、この会議は何かということになる。組織として会議として運用している以上、全部だしていただかないと判断する材料がない。</p>
委員	<p>保護者として様々な不安があって、言っていたが、保護者の不安を解消する議論はしているのか、また対策をどのようにするのか、漠然としたカウンセラーを置くや安全対策を行うという抽象的なものはあるが、保護者が安心できるシミュレーションをしたものがあったのかどうか。ないのであれば、それがなければ解消することはないと思う。反対していても最終的にはやむを得ないかなと6月の時点では方向性については、一定の理解は得られたと思う。不</p>

<p>教育長</p>	<p>安解消しないといけないのではないか。</p> <p>6月から12月にかけて、「全部の地域に説明に入って、いろいろ意見を聴いてくるように」ということを事務局にはお願いしていた。勝手に6月の案を変えるわけにはいかないので、この場での一定の議論を踏まえて、例えば「この地域は反対が多いからダメでないか」等の意見を聴かせいただきながら、次の修正案という形にして、「これについてはこういう対応をします」とか、「これについてはこのようをお願いしていきます」とかということを次の段階で説明していかないといけない。今日答えが出て終わりではなく、改善点や修正点を説明会で出させていただいて、それにできるだけ対処していきたい。先程、対象地域を修正しているが了解が得られているのかと意見があったが、手法によっては了解が得られるかもしれない。例えば6年生だけ選択でき、その他の学年は全て変更すると言ってきたが、学年進行にしますということであれば了解が得られるかもしれない。また、1年生から3年生までは移っていただくが、4年生から6年生は残ってもいいという方法もある。いろいろな手法の中で、出来る限り最終案としてそれぞれの学校の児童数が大きく食い違わないように出来る限りそろそろようにしていきたいと考えている。それでも合意が得られず、無理であるということであれば、見晴を全部安詳小学校に残すという答えが出てくる可能性はある。しかし、児童の数が安詳小学校と詳徳小学校で2倍以上の差が出てきているので、そのバランスを取りたいということで、通学路の問題や地域のコミュニティの問題等を一定聴いた中で、第一見晴区を含めて全体で動いていただけないか。そのためにこういうやり方をしていきますと、それでも無理ならそこを元に戻すということを議論の中でしていく必要がある。修正案で終わりではなく、それで無理ならそこで第二の修正をしていかないといけない場合も出てくる。手続きとして、地区割りと、どういう風にやるか、いつやるか、中学生については、紫の地域が保留になっているので、例えば詳徳中学校に移るのを1年遅らせて平成31年からというものも議論としてはある。ただ、地元としては早くして欲しいという声も聴いており、来年から行かせてほしいという意見もある。そういうものを調整しながら、中学校はキャパの問題は大丈夫なので、平成31年からやろうかという話が出てくるかもしれない。それで了解してもらえれば、夕日ヶ丘は1年遅らせることも可能である。紫色の亀岡中学校から東輝中学校へ移る予定の地域については、今の状況では難しいと判断しているので、小学校は平成30年から実施し、中学校は平成31年から実施するという小学校と中学校を分けて考えることも可能である。今日、いろいろな意見をいただいたので、学年進行を拡充していったらどうかという案も含めて説明して、理解を求められないかを探していきたい。反対があるからダメだということにしにくいことは御理解いただきたい。やり方を変えることで、御理解が得られないか工夫していきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>小中一貫、小中連携の内容が住民は理解しづらい。根拠として小学校の英語教</p>

	<p>育が始まる以外にないのか。他にどんな効果があるのかということが住民には見えない。小中一貫は亀岡市の教育振興基本計画でも定められていて目指すのはよいのだけれど、学校規模適正化と小中連携、小中一貫を一緒にするとややこしくなるのではないかな。もう少し教育上の観点からの必要性があるのではないかなと思う。</p>
座長	<p>事務局から小中一貫の効果等を説明いただきたい。</p>
事務局	<p>全国的な小中一貫教育、小中連携をさらにステップアップしたのが小中一貫教育というふうに理解していただけたらと思う。小学校、中学校、特別支援学校、中等教育学校等あるが、新たに義務教育学校が加えられ小学校6年間と中学校3年間の9年間を一貫した教育を行っていく学校である。そもそも小学校6年の区切りが発達段階上でそうでなければならぬ根拠がないため、5年間と4年間の区切りがよいとかいろいろ研究されているところである。要は6年間の区切りがあって、中一ギャップがあるから不登校やいじめが増えてきているので、それを解消し、不登校やいじめをなくすために小中連携、小中一貫を進めていこうとなっている。利点としては、中学校の先生が小学校に乗り入れして6年生くらいに専門的な授業ができるとか、そのまま中学校教育に移るのでスムーズに行く、小学校の先生が中学校の免許があれば、小学校から中学校へ一緒に上って行くこともできるため、子どもたちの人間関係を保ちながら中学校にも上がっていけるということなどが挙げられる。</p>
委員	<p>教育委員会の思いもあり、地元の思いもあり苦労されていると思う。川や道で区切るのではなく、地域の文化性を引き出して地域と一緒に学校づくりをしてもらう。学校と地域と家庭が一緒になって、子どもを育てていくということが欠けているのではないかな。説明会に参加した地域の方や保護者の方の話を聞くとか一方的に学校規模適正化検討会議で決まったからこうすると言ってきたことがおおきな誤解を生む一因ではないかな。しかしながら、保護者の皆様がそこをなんとか理解して子どもたちに大きな障害を起こさないように考えていただいていると思う。それから前回お願いしたが学校の現場の声を聴いて下さいということがされていないのが残念である。次に地域に入る前にまず学校の現場、地域の役員の声を聴いていただいてから説明会に入っていただきたい。</p>
委員	<p>現場の実情を大事にすること。準備の期間をしっかりとれるようにすること。地域の保護者の合意、納得を大事にすること。それを優先してやらないと子どもたちや保護者が不信感を持ったままで、学校の先生が大変なおもいをする。保護者がプレハブを建ててもそのほうが良いと言えばそうすればいい。それくらいの決意をもってやっていただきたい。</p>
委員	<p>人事の関係であるが、東輝中学校の生徒が減ると教師の数も減る。そのことに</p>

委員	<p>よって今まで頼りにしていた先生が減り、これまで適材適所で動いていたのに、先生が減ればどうしようかとなる。学校運営がうまくいかなくなるというのはそれも踏まえてのことである。</p> <p>この適正化では、詳徳中学校の生徒が増えて影響が大きくなる。適正化の方向性については致し方ないと思う。ひとつは、増える側としては保護者や生徒が納得して来ていただきたい。納得しないまま来られると学校運営が困難になる。もうひとつは、詳徳中学校の開校当初は人数がいたが、今は1学年3クラスで安定している。その状況の中で生徒が増えてくるといのは、環境的には悪化するのではないかと心配している。その辺りの手立てを平成30年からするのであれば平成29年からしなくてはならないし、それにはお金の問題も出てくる。心配しているのは、学年進行で進むからといって少しずつその場しのぎの環境整備になってしまっは、いつまでたっても落ち着かなることである。迎える側としては、整った中で迎えていきたい。</p>
委員	<p>学校を任せていただいているものとして、一番心配なのは混乱である。地域の皆様や保護者の皆様に支えていただいて、大きな学校でも順調に運営をさせていただいている。三位一体となっているなかで、それが崩れてしまったり、バラバラになったりすることを心配している。地域や保護者の皆様が100%は無いにしても、それは仕方がないと言っただけの期間や議論をしていただきたい。一方で、30年4月からというのは12月に決めるという話があったが、今のこの状態で決まっていくことが不安である。</p>
委員	<p>詳徳小学校は安詳小学校から移ってきたときに、子どもも保護者も来てよかったと思っただけのように目指したい。今回、特に国道を渡って通学する児童がたくさんいるということで、国道にガードレール等の安全面の整備ができる見通しを持ってから実施していただけたらと思う。子どもたちが安心して通学してほしいし、学校としてもできることは教育委員会と連携してやっていきたい。</p>
委員	<p>概ね方向性としてはやっていかなければならないと思う。これだけいろいろな意見の中で、実際に30年からとなると大変不安を感じる。地域の方が理解する人が増えていくことが前提でつつじヶ丘小学校は、南つつじヶ丘小学校へ送り出すほうと安詳小学校から迎え入れるほうとあり、出るもの来るものの感情が入り乱れてくるので、非常に不安はある。</p>
委員	<p>一番大前提になるのが、学校は地域の中核になる施設であるということ。今も社会のプラットホームだと言われている。南つつじヶ丘小学校で心配なのは、納得いかないままに行かされたとなると、最初から学校の取組みに対して厳しい目で見られて、それが学校の運営がうまくいかなくなることに不安を持って</p>

	<p>いる。ただ一定編成は必要で、これで決まったという時には、学校としては不安解消のためにいろいろな策を取っていくつもりである。実際に東つつじヶ丘曙台4丁目の地域については、南つつじヶ丘に隣接しており、南つつじヶ丘小学校へ移ることについては、賛成がする人が多いと思うが、問題なのは南つつじヶ丘の地勢からいくと、曙台の1～3丁目と広田3丁目が谷の下になるので、そこは住民からしたら谷の高さと同じでハードルが高いと思う。だから自治会組織も大事にしなければならないので、すりあわせが大事になってくる。学校としては、受け入れが決まれば、交流学习とか登校班のことについては万全にしていきたいと考えているので、安心して来ていただきたい。まず住民合意だと思ふ。</p>
<p>委員</p>	<p>確認したいのが、ひとつは黄色のつつじヶ丘小学校にいく地域も同じような状況である。地域の中には賛成される方もいるし、任せるという方もいるし、ずっと反対されている方も多数いる。実際に反対運動をしようとしてされている方もいるし、署名しようとしてされている動きもある。もう少し時間をかけて説明してほしいので、平成30年に拘らずに議論をしていただきたい。もうひとつ、緑の部分や黄色の部分を変更されているが、前回の案ではこれをしたところで安詳小学校は適正規模の学校になっていなかった。変えたところで準適正だということでした。今回の見直し案で、適正規模になるのか。</p>
<p>座長</p>	<p>中学校は二つの中学校がほぼ同じ。555人と575人となる。小学校は詳徳が335人で適正規模にあとわずかで、安詳が670人でもう少し減れば適正規模になる。南つつじヶ丘は380人で適正規模の範囲内で、つつじヶ丘は610人あと70人減れば適正規模になる。</p>
<p>教育長</p>	<p>文部科学省で適正規模の範囲が示されており、その範囲にいれることがひとつの目標である。ただ、安詳小学校については、少人数学級や少人数指導の問題で校長先生にも苦勞していただいております、それをある程度自由にできるような環境にするのが第一義だと思っている。最低でもそこまでしないと安詳小学校の機能が失われてしまうので、それはなんとかしていきたい。校区の地区割についてはいろいろ反対も聞いているのでやり方も含めて確認させていただいて、一定地区割については示させていただきましたので、こういうやり方で実施することは可能であるかを御意見いただき、よければこれでいくし、ダメであればもう一度議論をする中で安詳小学校に戻す。ただし、あちこち戻して安詳小学校の最低ラインをクリアできない状況であれば、今後児童数が増える可能性もあるので若干余裕をみたくうえで安詳小学校の運営ができるような状況に収めていく必要がある。</p>
<p>座長</p>	<p>それでは長時間にわたって協議いただきありがとうございました。今日いただいたご意見をもとにして、教育委員会でもいろいろ検討させていただいて、次</p>



	の会議や地域ごとの説明会につなげていきたいと考えています。
--	-------------------------------

※ 今回の会議で結論がでませんでしたので、引き続き検討していきます。